

## 基調講演

大阪の文化振興に長きにわたり取り組んできた山崎正和氏。基調講演では、迷走する大阪の文化行政に苦言を呈するとともに、今後大阪が目指すべきメトロポリス的文化のあり方が提起された。そこで示されたのが“新・摂津国”の復活。既存の行政域を越えた新たな枠組みで、大阪の文化は復興するのか。

# 「関西・大阪の文化復興について」



山崎正和氏  
劇作家、大阪大学名誉教授

1934年京都府出身。京都大学文学部哲学科卒業。関西大学教授、コロンビア大学客員教授などを経て、大阪大学教授、同大学名誉教授。平成13年より中央教育審議会委員として、教育・文化・行政全般の政策策定に参加し、平成19年より会長。平成11年紫綬褒章、平成18年文化功労者。

## 大阪が目指すべき文化

みなさんは毎日昼の時間に放送されるNHK『生中継!ふるさと一番』という番組をご存知でしょうか。この番組は、日本全国の小さな町や村を訪ね、その土地の文化を愛し、保存活動などを行っている人たちを紹介する番組です。小さなお宮のお神楽を守ろうとしている人、廃線になった電車の保存活動に懸命になっているグループなど、いろいろな方々の涙ぐましい努力が紹介されています。これはまさに文化活動であり、それ自体が文化と呼べるものでしょう。

翻って、私たちが大阪の文化を考える場合、この番組の観点からいえば、大阪はすでに何もなくていいぐらい豊かな文化に溢れています。そしてまた、私たちが暮らす大阪は、東京に次いで日本の中心の一つであり、メトロポリス(大都市)なのです。では、メトロポリスにふさわしい文化とは何か。それはお神楽や廃線になった電車を守るのではなく、もう少し大きなものを目指さなければならないはずだと思います。

## メトロポリスに必要な文化の条件

メトロポリスにふさわしい文化の条件を挙げると、第一に、その文化は当の土地だけでなく、日本をはじめ、アジア、そして世界といった、より広い世界に対して貢献していることが重要です。また、その文化はその地域外の人、あるいは異なる文化や習慣をもつ人たちに対しても開かれていなければなりません。開かれているということは、多くの人たちを吸引し、同時に多くの人々の力を複合する、つまり多様なものをその場所に統一するということです。例えば歴史に残る文明を築いた、古代ギリシャのアテネがそうでした。

じつは、アテネの文化をつくり、支えた人はほとんどが外国人でした。古代ギリシャの歴史家ヘロドトスは小アジアのハリ